

## 地域体験活動(3)

### 近江八幡市 Since 訪問

～不登校と多様な生き方を学ぶ～

2024年9月23日(月・振)

滋賀県

子ども県議会

事務局発行 / No.5



地域体験活動では、子どもたちが県庁を飛び出し、地域に根付いた施設や団体を訪問し、直接お話を伺うことで、滋賀県の魅力や課題について学びます。今年は4か所の協力をいただき、子ども議員たちは各地で貴重な体験をしています。

## 「Since」とは？

子どもたちは、NPO法人「Since」を訪問し、不登校の現状や、多様な生き方について学びました。「Since」は、不登校の子どもたちが安心して過ごせる居場所や、新たな学びの場を提供し、子どもたちの自己肯定感を高める活動を行っています。

## 学びの内容

### 1.不登校の現状

- ・滋賀県の小中学生で不登校は3,385名（令和4年度）中学生では約17人に1人が該当すると言われています。
- ・不登校の背景には、学校と社会とのギャップや、多様な生き方への理解不足が挙げられました。

### 2.大切なメッセージ

「居たい場所に居ていい」「頑張る自分も、頑張らない自分も大切」「しなやかに生きることの大切さ」など、不登校の子どもたちに向けたメッセージが紹介されました。これらは、すべての子どもたちにとって生き方を考えるきっかけとなりました。

### 3.多様な学びと居場所の提供

- ・「Since」は、フリースクールを運営し、学びの選択肢を広げる取り組みを進めています。
- ・子どもたちが「安心できる場所」としての受容感を得られることを大切にしています。

### 4.利用されるお子さんの声

- ・「学校に行く以外にも、自分の学び方を選べる時代になっていると感じた。」
- ・「誰もが安心できる居場所があることは大切だと思った。」
- ・「不登校の子の気持ちや背景を知り、社会全体でサポートが必要だと感じた。」



## 麻生さんご紹介

麻生さん(フリースクールSince 代表理事)は26歳。中学生時代に不登校を経験。当時、「不登校になって、人生が終わった。」と絶望。しかし、保護者の受け止め、学校外の居場所、友人との出会いで、徐々に前向きに過ごせるように。そのような経験から、大学時代の仲間と共に、フリースクールを開校。学校に行っている子も、行っていない子どもも健やかに育つ社会の実現を目指している。2024年よりNPO法人フリースクール全国ネットワーク理事に就任。麻生さんには中井さん同様若手起業家として「不登校や学校・教育・子ども・多様性」について話してもらいました。

## 子どもたちの感想から

「Since」を訪問し、不登校や多様な生き方について学んだ子どもたちから、以下のような感想が寄せられました。

### ・子どもたちを尊重する姿勢への感動

「来ている子どもたちを尊重することの大切さを学んだ。」

「一人一人を大切にされていることを知りました。」

### ・不登校の背景への理解

「なぜ不登校になるんだろうと思っていましたが、その理由が分かりました。」

「学校に通えていない人たちがいる現実を知り、支援が必要だと感じた。」

### ・居場所づくりの重要性

「居たい場所にいいという言葉が沁みました。」

「居場所を作ることの大切さを知りました。」

「保健室にもこういう場所があるという紹介をもっと広げてほしい。」

### ・若者が起こす社会変革

「若い人でも努力すれば、社会活動やフリースクールを作ることができると知りました。」 「海外の事例や取り組みにも興味を持ちました。」



## まとめと今後の活動に向けて



子どもたちは、不登校の背景や課題に触れ、自分たちが地域や社会でどのように役立つかを考えるきっかけを得ました。また、「居場所」の重要性を改めて理解し、自身の行動や周囲への視点を広げる貴重な経験となりました。